

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	52	大学等名	津田塾大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、当該大学が培った「女子リベラルアーツ教育」の伝統を「大学教育の質的転換」に重ね合わせ、留学、インターンシップ、ボランティア等の学外学修の機会を与え、長期学外学修の制度化、ギャップターム導入という大きな制度変更を行ったことは高く評価できる。また、本事業を契機に学外学修活動が科目化されたことで、大学の正課学修として全体的な把握や体系的指導が可能となったことに加え、学外学修に関するワンストップサービスの窓口として「学外学修センター」が設置され、効果的かつ効率的に学生の主体的な学びを推進できるマネジメント体制が整えられたことについても評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、年度計画に沿った取組がなされ、着実な成果が上げられていることは評価できる。また、令和元年度に学外学修センター申請受付業務がオンライン化され、申請から報告書までオンラインで行うことが可能となったことにより、学生・大学双方の利便性が向上したとともに、学生は学外学修の参加履歴や目標達成度、今後の課題がシステムで閲覧できるようになったことで、自らの学外学修活動のPDCAサイクルを回すことが容易となったことも評価できる。他方、必須指標である「長期学外学修プログラムに参加する学生の割合」「学生の授業外学修時間」「進路決定の割合」及び「退学率」が目標値に未達となっている。特に「学生の授業外学修時間」については、全体像の把握が難しいことが課題とされ、学外学修を含めた授業外学修時間を算出する方法を検討することとなっていることから、課題を着実に解消し、数値の向上に努めることが望まれる。

事業定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、「学内評価委員会」及び「外部評価委員会」で提示された課題に基づき具体的な事業の見直しが行われており、効果的なPDCAサイクルが機能しているものと評価できる。また、本事業の推進組織であり、学外学修のワンストップサービスの窓口でもある「学外学修センター」の活動は全学の教職員及び学生に浸透しており、補助期間終了後も存続されるとともに、専門人材の雇用も行われていることから、事業の継続に向けた体制が整備されていると評価できる。加えて、補助期間終了後も継続的かつ発展的に事業を実施するための十分な予算が確保されていることから、今後の更なる発展が期待される。

事業成果の普及については、全学的な4ターム制（クォーター制）の導入で、第1、3、4タームは学びに集中し、ギャップタームは学外学修に参加するといった学期間のメリハリができています。また、本事業における取組には学生の自己探求を促す4つの仕掛けが作られ、それらが有機的に結び付くことで、学生の主体性を育てる制度となっており、特に「自己開拓型」については、当初の予想を超え多くの学生が参加したことから、その成果が上げられていると評価できる。なお、取組で得られた具体的な成果や示唆については、今後もより積極的かつ効果的に情報発信に努められ、我が国の大学の国際化に寄与することが期待される。